

学校別耐震診断の状況

(平成24年4月1日現在)

学校名	建物区分	構造	建築年	階数	区分	優先度調査		第1次診断		第2次診断			耐力度	備考
						年度	ランク	年度	Is値	年度	Is値	q値		
平沢小学校	校舎	RC	S63	3	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	体育館	S	S46	2	旧基準	H21耐震補強済				補強後	0.75	1.33		補強後耐震性有り
院内小学校	管理・特別教室棟	RC	S40	2	旧基準	17	③			21	0.69	(0.90)	4,057	H25以降耐震化
	普通教室棟	RC	S40	3	旧基準	17	②			21	0.56	(0.73)	3,801	
	体育館	S	S40	1	旧基準	17	③			補強後	0.71	1.72	4,180	補強後耐震性有り
小出小学校	特別・普通教室棟	RC	S54	2	旧基準	17	⑤	20	0.43	21	0.66	(0.68)		H25以降耐震化
	管理・特別教室棟	RC	S54	1	旧基準	17	⑤	20	0.74	21	1.36	(1.40)		耐震性有り
	体育館	S	S54	1	旧基準	17	④	20	0.38	補強後	1.09	1.98		補強後耐震性有り
金浦小学校	校舎	RC	H16	3	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	体育館	S	H16	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
象潟小学校	北校舎	RC	S52	3	旧基準	H23耐震補強済				補強後	0.72	(0.52)		補強後耐震性有り
	小体育館	S	S53	1	旧基準	H21耐震補強済				補強後	0.74	1.57		補強後耐震性有り
	南校舎	RC	S62	3	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	体育館	RC	S62	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
上浜小学校	特別教室棟	RC	S46	2	旧基準	17	③			20	0.88	(0.91)		耐震性有り
	管理・普通教室棟	RC	S45	3	旧基準	H10耐震補強済				補強後	0.84	(0.84)		補強後耐震性有り
	昇降口	S	S60	1	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	体育館	S	S60	1	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
上郷小学校	校舎	RC	S50	3	旧基準	H14耐震補強済				補強後	0.74	(0.75)		補強後耐震性有り
	体育館	S	S50	1	旧基準					17	0.79	1.80		耐震性有り

仁賀保中学校	校舎	RC	H21	3	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	体育館	RC	H21	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	武道場	RC	H21	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
金浦中学校	校舎	RC	S54	3	旧基準	H13耐震補強済				補強後	0.84	(0.87)		補強後耐震性有り
	体育館	S	S54	2	旧基準	H13耐震補強済				補強後	0.99	1.81		補強後耐震性有り
	武道場	S	H23	1	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
象潟中学校	管理・教室棟	RC	H20	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	普通・特別教室棟	RC	H20	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	特別教室棟	RC	H20	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	
	体育館・武道場	RC	H19	2	新基準	—	—	—	—	—	—	—	—	

() CT×SD値

<用語の解説>

「構造」

「RC」とあるのは鉄筋コンクリート造を、「S」とあるのは鉄骨造をいいます。

「旧基準」「新基準」

「区分」欄に「旧基準」とあるのは新耐震基準施行(昭和56年)以前に建築されたものを、「新基準」とあるものは新耐震基準施行後に建築されたものをいいます。

「新基準」との表示のあるものは、耐震性がありますので、「区分」欄から右の各欄は、すべて「-」となっています。

「旧基準」との表示のあるもののうち、未改修のものについては、「優先度調査」、「第1次診断」又は「第2次診断」のいずれかが実施されていますので、これらのいずれか該当する欄にそのデータを掲げてあります。

「優先度調査」

「優先度調査」は、正確には「耐震化優先度調査」といい、学校設置者が、どの学校から耐震診断を実施すべきか、その優先度を検討することを主な目的として実施するもので、実施した「年度」及び優先度ランク(①高～⑤低)を「ランク」欄に掲げてあります。

「第1次診断」

「第1次診断」は、建物の耐震性能を簡略に評価する診断方法で、実施した「年度」及び「Is値」をそれぞれの欄に掲げてあります。

「第2次診断」

「第2次診断」は、建物の耐震性能を詳細に評価する診断方法で、実施した「年度」及び「Is値」及び「q値」、CT×SD値をそれぞれの欄に掲げてあります。

「耐力度調査」

「耐力度調査」は、老朽化した建物に対して、建物の構造耐力、経過年数、立地条件などを総合的に調査し、老朽化の度合いを判定する診断方法で、基準(4, 500点以下)を下回れば、改築事業の対象となります。

「Is値」

「Is」(構造耐震指標)は、建物の耐震性能(地震に対する安全性)を数値化したもので、その値が大きいほど耐震性能が高いことを表します。

第1次診断により算定したIs値が0.8以上の場合及び第2次診断等により算定したIs値が0.6以上の場合、耐震性能がある建物とされていますが、学校施設については、児童・生徒の安全性、避難所としての機能性を考慮し、Is値0.7以上を確保する必要があります。

<Is値の目安>

Is値0.3未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が高い。
Is値0.3以上0.6未満	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性がある。
Is値0.6以上	大規模な地震の振動及び衝撃に対して倒壊、又は崩壊する危険性が低い。
大規模な地震 震度6強から震度7程度の地震を想定しています。

※国では、Is値0.3未満の耐震化については平成23年度までの完了としています。

「q値」「CT×SD値」

「q」「CT×SD」(保有水平耐力に係る指標)は、地震による水平方向の力に対して建物に対応する強さを表すもので、その値が大きいほどよく、q値1.0以上、CT×SD値0.3以上が目標値とされています。